
完全犯罪

十六夜咲夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

完全犯罪

【Nコード】

N4117P

【作者名】

十六夜咲夜

【あらすじ】

「人の構想は人の構想。人が解読できるのは当たり前。」
別荘で起こった殺人事件。

連続殺人犯からの殺害予告。

その連続殺人犯は、今度”も”完全犯罪をやったのか・・・。
だが警部は言う。

「完全犯罪など有り得ない」

Prologue 『予兆』 (前書き)

記念すべき初作品です。

この小説は、今後投稿予定の犯罪シリーズ第1作目になります。

Prologue 『予兆』

「所詮、人の構想は人の構想。人が解読できるのは当たり前。」

「君も、そう思わないか」

「・・・・・・」

また、始まった。

警部は大きい事件を前にすると、自信を持つためにこう言うのが癖だ。

今、向かっているのは、ある山奥に位置する別荘だ。

そこで1ヶ月間住むことを決めた6人のうち1人に、指名手配中の連続殺人犯からの殺害予告が来た。

それを受けて、殺害を未遂で終わらせると共に指名手配犯を逮捕すべく、

こうして警部と別荘へ車で急いでいるのだった。

しかし、今日の足取りは非常に重いものだった。

『この事件を解決できなければクビにする』と、上から直々に言われたのだ。

ここ5年程はずっと、この警部と2人組で事件捜査をやってきた。だがここ最近、犯人に対しての負け戦が続いていた。

それを見かねた署長が、こうして準・解雇宣言をしたわけなのだ。窓から見える単調な景色も相まって、心は暗くなるばかりだった。

そうして窓の外をただ淡々と眺めていると、急に開けた場所に出た。別荘に着いたのだ。

「おい、着いたぞ」

そう言われるまで、ここが目的地であることを忘れていた。

駐車場に止められている車は自分たちの車だけだった。

初め、その事は気にしていなかった。

「さっさと行くぞ。今度の事件も生半可なものじゃないんだ。」

「あ……はい。」

警部に急かされて、足取りをはやめた。はやめ過ぎたか、今度は警部にゆっくり歩くよう言われた。

車から見たときには綺麗な別荘も、いざこつして近づいてみると補修の跡が多く見られる。

別荘の壁を気にしている間に、警部はインターホンを押した。

しかし返事がない。誰かが迎えに出る気配もない。ドアの鍵もしっかり閉められている。

ここで、先ほどは気にしなかった「家主の車が1台もない」ことが気になった。

警部もそれに気づいたようで、

「この6人は出かけちまったのか？」と放った。

その時、山道の方から1台の車がこちらに向かってきた。

その車は別荘の駐車場に止まり、中から別荘の住人と思われる人たちが降りてきた……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4117p/>

完全犯罪

2010年12月18日17時37分発行